

いまどきの青少年

～市立高校を巡回するSSWから見たもの～

令和3年10月26日

横浜市教育委員会事務局 人権健康教育部

人権教育・児童生徒課 高校スクールソーシャルワーカー

岩 尾 尚

hi00-iwao@city.yokohama.jp

こんにちは!

スクール
ソーシャル
ワーカーです!

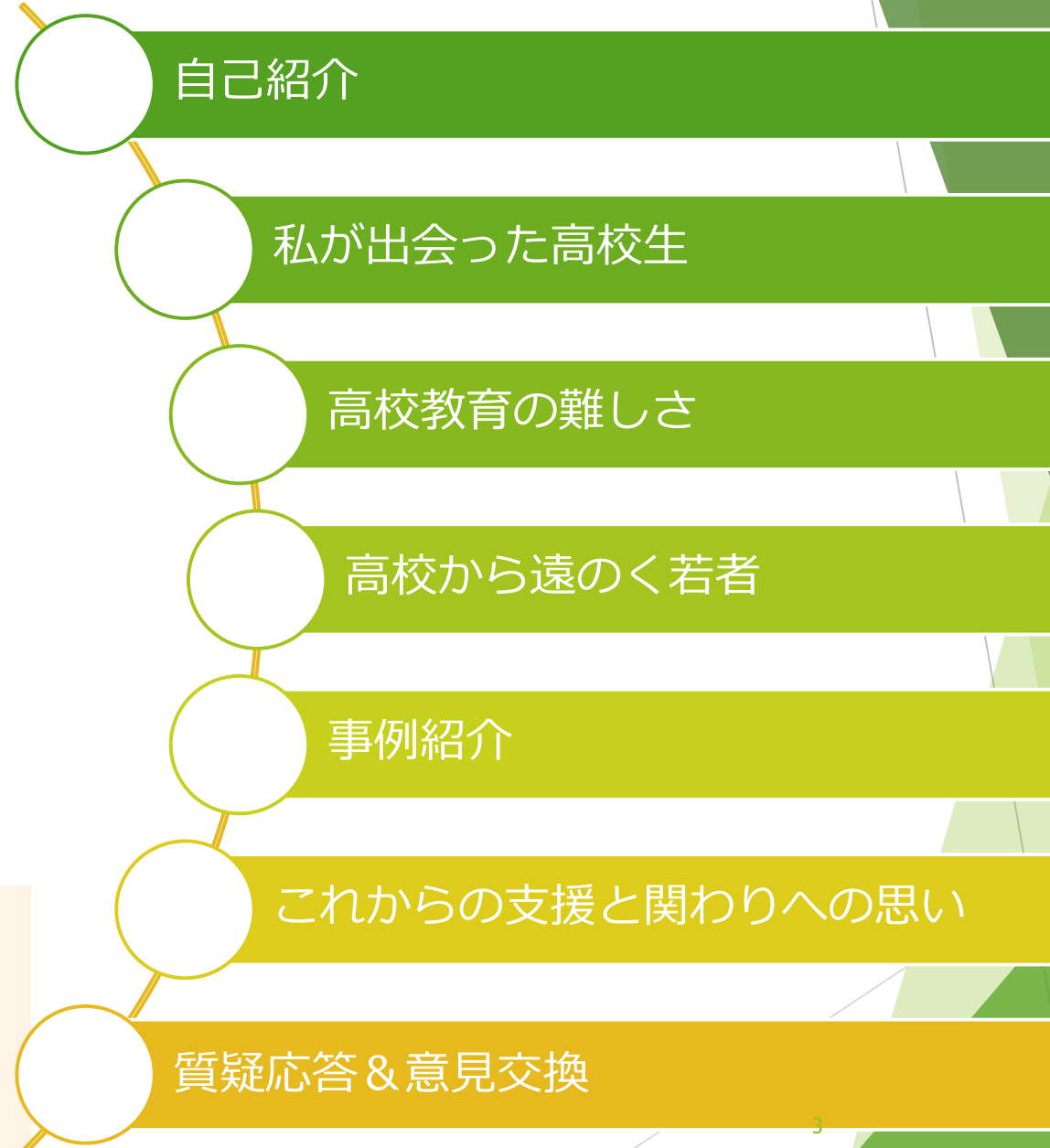


スクールソーシャルワーカーは、
学校生活での困りごとを抱えている
子どもと家族を支えるための社会福祉の専門職です

本日の内容

S S Wの職務内容

- ・問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ
- ・関係機関とのネットワーク構築、連携・調整
- ・学校内におけるチーム体制の構築、支援
- ・保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供
- ・教職員等への研修活動 等



■ 私が出会った高校生 ■

教室巡回で…

疲れている
寝ている



保健室で…
養護教諭と一緒に
お弁当を食べている



…さぼる (体調不良)
…おなかすいている
…朝食は食べない



放課後…つるんで行動



いろいろな
トラブルに
巻き込まれる

遅刻・欠席が増え
進級・卒業が
難しくなる



定時制では…
食堂で給食を食べる/
食べないで話してる



進路室で…
進路決定できずに
先生から連れてこられる



面接練習で
つながる



起こった出来事

①入学したが一日も通えない（入学式のみ）

高校進学に向けて、希望をもって受験勉強に取り組み入学

→朝起きられない（体調不良？ 小・中不登校）

→電車やバスを使った通学に慣れない

（通学に時間がかかり疲れる 電車に乗れない）

→友達ができない（知った顔がない）

（弁当を一緒に食べる人－場所がない）

②最初は頑張って登校したが足が向かなくなる

- 思った通りの学校生活ではない
(イメージ先行で現実とのギャップを感じている)
- 友達とうまくいかない
(挨拶・新しい関係構築が苦手)
- 勉強についていけない
(中学との学び方の違い)

③夏休み明けに登校できなくなる

- 夏休みに生活リズムが崩れる
(家に居ることになれる 昼夜逆転)
- 地元の友達と遊ぶことが楽しくなる
- 課題が終わらない
- うまくいかないのではないかと不安になる
(コロナ不安?)

④遅刻欠席が増え単位取得が難しくなる

- 苦手な授業がある（ついていけない／わからない）
- テストの点が取れない
- 提出物が期限に間に合わない
（勉強時間・家に場所がない）
- クラスに入るのが怖くなる
- 気持ちが落ちて体調不良になる
（他に気になることがある）

■ 高校教育の難しさ ■

義務教育を終え、自分の意思で受験して入学します

- ▶ 74単位以上修得で卒業
- ▶ 学年制と単位制がある
- ▶ 全日制と定時制がある
- ▶ 普通科、専門科、総合学科がある
- ▶ 2/3以上の出席と提出物、定期テスト等の評価による成績会議で決定！ 「未履修」「未修得」 = 「1」

⇒中学まで許されていた「不登校」が、高校では出席日数の評価がある為、正当な理由がない場合は欠席となり、このことをきちんと理解していないと、進級や卒業を含めて高校生活が難しくなる。継続するには「意欲」が問われる。

問題を抱える高校生の言葉

- ▶ 「別に…」 大丈夫・困っていません
→感情の喪失／本音と言えない
- ▶ 「どうせ…」 言っても無駄→負の経験の積み重ねによるあきらめ
- ▶ 「うざ！！」 ほっといてほしい

その背景には様々なことが隠れているようです

主な背景要因

- ▶ 本人の特性による生きづらさ
- ▶ 家庭環境（貧困・虐待）による生きづらさ
- ▶ 「助けて」と言えない孤独感（感情の喪失）

本人の特性による生きづらさ

- ▶ 複雑な話が理解できない
- ▶ 言葉にできない
- ▶ 感情を表せない

耳・目

声・言葉

心・気持ち

誰もわかってくれない!!!

家庭環境による生きづらさ

- ▶ ひとり親
- ▶ ステップファミリー
- ▶ ヤングケアラー

貧困

虐待

愛着

普通って何？

「助けて」と言えない孤独感

- ▶ サポステで10年経って来所した若者に
なぜその時に相談できなかったか聞くと

→こんなことで相談(?)できると思っていなかった
→そもそも誰に何を話したらよいかわからなかった
→誰かに話して親に迷惑をかけたくなかった

自分が我慢すれば・・・

■ 高校から遠のく若者 ■

- ▶ 横浜市ホームページ 暮らし・総合 令和2年度教育統計調査より

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/toukeichosa/kyoiku-toukei/r02kyouikutoukei.html>

- ▶ 文科省－高等学校教育の現状について（R1.8.3）より

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/main8_a2.htm

登校意欲がなくなるのは？

- ▶ 将来の目標が見えない
- ▶ 自分のやりたい（できる）ことがわからない
- ▶ 「働く」姿をイメージできない
- ▶ 何のために高校に行くか
みんなが行くから、せめて高卒といわれる
- ▶ 学ぶ（生きる）楽しさを実感できない
自信がない、成功体験が少ない

登校しない生徒の状況

- ▶ 自室がある

 - ない場合は、居場所を求めて街をさまよう

- ▶ 食事が提供されている（お金・食物）

 - お腹が空いたときに自由に食べられる環境

- ▶ スマホを持っている

 - 家の中で時間がつぶせる（スマホ）

 - 欲しい情報はいつでも手に入る（スマホ）

 - 友だちとつながっていられる（スマホ）

高校生とスマホ

- ▶ SNSでつながる友達関係
- ▶ 自己表現の場（Twitter・instagram・Youtubeなど）
- ▶ 暇つぶし（ゲームやネットサーフィン）

▶ スマホのメリット

授業中の調べ検索／板書の撮影

部活の連絡

アラーム・スケジュール管理

▶ スマホのデメリット

手放せない（いつも気にしている）

直接話をすることから遠のく

いつでもゲームができる

一方的な自己表現（言葉の難しさ）

<事例 1>



S S Wの関わり

- ▶ 担任を含めての校内ケース会議

情報を確実に伝えるために、
いつまでに何をするかを整理

- ▶ 具体的な行動レベルの助言

本人への連絡方法の確認
家庭状況の把握

- ▶ キーパーソンへのアプローチ

現状を伝え援助してもらえよう依頼

気づいたこと

- ▶ 義務教育を出て自己管理とされているため、高校へ通うことへの保護者の関心が薄くなっている
- ▶ 通学範囲が広い為、容易に家庭訪問などができにくく、保護者との連絡が取れない状態が続いてしまう
- ▶ 家族のなかでのキーパーソンを見つけ活用することで、スムーズに改善に向かうこともある
- ▶ タイミングも重要！

<事例 2>



S S Wの関わり

- ▶ 担任を含めての校内ケース会議

夏休みの居場所が必要⇒ユースプラザを紹介

本人からは通信制への転学の話がでている

→二学期からの関わりを検討（未履修カウント確認）

→本人に通信制のことを現実的に検討させる

- ▶ S Cとの継続面談を依頼

本人の気持ちの聞き取り（家族に言いたいことが言えない）

- ▶ 保護者面談

本人の気持ちの代弁（本人が選択できるように）

気づいたこと

- ▶ 本人は「休んで少し考えたい」けどうまく伝えられない⇔保護者は「未履修になると学校をやめなくてはならない、登校しろ」と責める、悪循環
- ▶ お互い納得できるところはどこか整理する
- ▶ 様々な選択肢を学校と検討し、保護者に伝えることで、本人が安心して次の一歩を選択できる

<事例 3>



S S Wの関わり

- ▶ 本人のアルバイト支援
- ▶ 今までやってみてきた仕事、うまくいったこと、苦手なことを整理
- ▶ コミュニケーションと時間や約束を忘れることが課題であるため、仕事体験として他者との関わりの中で訓練していくことを提案

⇒地域ケアプラザの協力を得て、有償（交通費）ボランティアをさせてもらいながら仕事の基本を学ぶ機会を創る

気づいたこと

- ▶ 本人の意欲喚起、保護者との関係性の調整は、その家族歴史の上に成り立つもの
- ▶ 児童福祉の18歳の壁は厳しい
- ▶ 仕事が続かない（経験値が少ない）生徒が、中退してしまうと助けられる場所はどこか、、、？
- ▶ 学びながら働ける（せめて交通費を稼ぐことができる）場所を創ることが必要

高校では、

- ▶ 教員は生徒の人格形成のために様々な学習を通じて生きていくことに必要な事柄を学ぶ姿勢を教えている、生徒にとって尊敬する人
- ▶ 教員は家庭状況や経済的なことに立ち入って話を聞くことは好ましくないと思っている
- ▶ 高校では単位取得のための評価基準を明らかにする必要がある（欠席回数や提出物等）

⇒ 現行の学習指導要領、高校教育課程では限界？

中退～ひきこもり

- ▶ パターン化する中退
「無気力」「長欠」「進路変更」
- ▶ どこにもつながらず、ひきこもりまっしぐら
「助けて」と言えない、言わない
- ▶ 動き出せない生活
「昼夜逆転」「二次障害」

■ これからの支援と関わり ■

- ▶ 必ずしも、今すぐの「高校卒業」がいるか
- ▶ 働ける（対価をもらう）訓練の場が必要
- ▶ 学習支援（居場所としての関わり）
- ▶ 自己理解のための対話
（自分の強み・弱み、そのままを知る）
- ▶ 目指す姿（憧れる職業、生き方）に出会う場
- ▶ 「一人で抱えず誰かに助けてもらってもいい」
ことを伝えていく

特別ではない対応

- ▶ 自然な出合い
保健室・図書室・職員室前廊下
- ▶ 気兼ねない雑談のできる関係性
挨拶・校内カフェ・本プロ
- ▶ みんなで、友達と気軽に

⇒本音。「実は、、、」が語られると良い

雑談の中から見えてくるもの

▶ 日々の生活

食事・・・いつ誰とどこで食べているか

睡眠・・・生活リズム、睡眠時間

居場所・・・家の中でどこで過ごしている

▶ 学校での人間関係

クラス・・・気の合う友人がいるか

部活・・・取り組み姿勢が合っているか

登下校・・・同じ方面の帰路か

雑談の中で語られる家族の状況、生きにくさ

いまどきの高校生は

- ▶ 明るい・群れる・優しい（基本は昔と何も変わっていない）
 - ただし、コミュニケーションツールが変化し、ゆっくり時間を待つことが難しくなっている
 - スマホ世代でITを使いこなし、物理的な距離を感じず、縦や横のつながりを自由に広げ、新しいことに挑戦したり、新しい言葉を創り出したりしている
 - 一方で、そのスピードに付いていけず、小・中学時代にその流れに乗る経験を積んでこなかった子どもたちが、高校になってズレを感じてしまうのではないか。または、それに合わせようと無理をしてしまうこともあるのではないか。
 - 高校生にとっては、きつい現実となっているかもしれない

SSWを知ってもらう

▶ 入学前の準備・心構え

高校生活への期待（どんなことに挑戦するか）

高校生活の過ごし方（授業・行事・友だち）

⇒ SSWの訪問曜日・時間（チラシ作成）

▶ 入学後のフォロー

学校の中での居場所紹介（図書館・食堂・保健室）

+ 気軽に話せる人（SSW）紹介

学習支援&人生相談

学校以外での相談場所の紹介（ユースプラザ・区役所相談等）

みなさまと一緒に切れ目のない支援をつないでいきたい

その他にも

いろいろな関わり方が考えられると思いますが、
皆さまのお知恵をお借りして、高校生が自分らしく、
よりよい選択をできるよう
と一緒にサポートしていけたらと思っています

ご清聴ありがとうございました！

このあと質疑応答・意見交換

質疑応答・意見交換

今日の話をきいて、
高校生(青少年)たちに、どんな感想をお持ち
になったでしょうか。

皆さんなら、この高校生(青少年)たちに、
どんなことができそうでしょうか。

普段の生活に+ (プラス)
“まなざし”と
“つながる心”を

